

# 学級活動指導案

活動場所 北校舎2階 1年1組教室

生徒数 男子 16名 計 31名  
女子 15名

指導者 教諭 鮫嶋宏治

## 1 題材 「働くことの意義」

## 2 題材設定の理由

現在、フリーターやニートの増加など、若者を取り巻く「働く環境」が大きく変化してきている。この要因には、不景気に伴う企業の雇用減少によるものも挙げられるが、若者自身の働くことへの考え方が変化してきていることも、そのような現象を生む大きな要因の一つであると考ええる。職業や勤労に対する理解の不足や安易な考え方など、若者の職業観・勤労観の未熟さが指摘されている。いつまでも社会的および経済的な独立をしようとせず、また安易な考えで退職や転職を繰り返すことは、その後の人生設計に大きな負の影響を与えてしまいかねない。それだけに、中学生の段階から、自分の将来のことを具体的に深く考えさせ、さまざまな価値観に立って望ましい職業観や勤労観を身に付けさせておく必要がある。

中学生の発達段階において、第1学年のこの時期は、自分の周囲や社会現象に関心をもち始め、自己の個性に気付くとともに、自分の将来についても具体的に考え始める時期である。小学生までは夢やあこがれを先行して考えてしまいがちだが、今後は多角的に自分の適性や価値を分析し、総合的に判断する能力を育てていく必要がある。

また、学級活動においては、小学校段階から話し合い活動や討論の方法を学び、行ってきたが、中学生という発達段階を迎え、自分の意見をもっているものの考え方に自信をもてずに恥ずかしがったり、他人の目を気にしたりする傾向が見られる。また、自分の考えをもち、それを他者と分かちあったりするなどのコミュニケーション能力が不足している場面を見る機会も多い。そこで、自分の考えをしっかりと他者に伝え、他者の考え方を受容し、自分の考えと照らし合わせながら、互いに自分の価値を高め合えるような、話し合い活動を充実させていく必要がある。

このことから、生徒主体の話し合い活動を行いながら、さまざまな働く意義や目的を探求し、一人一人が自分の職業観や勤労観を形成し、確立していく過程を設定し、指導を行っていきたいと考えている。

## 3 学習指導要領との関連

活動内容 (3) 学業生活の充実、将来の生き方と進路の適切な選択に関すること

## 4 指導目標

- (1) 働くことの意義や目的について話し合う活動を通して、さまざまな職業観や勤労観に気付かせ、今後の進路学習に意欲的に取り組んでいこうとする態度を育てる。
- (2) 進行表をもとに、班長を中心とした話し合う活動を通して、自分の考えを他者に伝え、他者の考え方を理解し、その違いを認めていこうとするコミュニケーション能力を身に付けさせる。

## 5 指導計画

月	第1学年	第2学年	第3学年
4			先輩の姿に学ぼう
5	私たちの将来		職場体験学習に向けて 生き方について考えてみよう
6	自分の特色	働く人々の仕事と考え方	
7	人と個性	自分の可能性を生かそう	
9	働く人々のすがた		自分について見つめ直してみよう
10	働くことの意義 (本時)	職業とはなんだろう 職業の内容を調べよう	進路先を調べよう
11		「学ぶ道」を調べよう	自分の進路を最終決定しよう
12		高等学校・専門学校の内容を調べよう	自分の道を切り開こう
1	進路設計の必要性	専門性を高めるにはどうしたらよいだろう 適性とは何だろう	
2	進路計画の立て方	自分の特色と進路の関係を調べよう 進路計画を検討しよう	希望にあふれて
3			巣立ちの日

## 6 生徒の実態

### (1) 学級の実態

学級の雰囲気は全体的に明るく、男女とも仲良く活発である。入学直後は学校や友人の様子が分からず、おとなしい雰囲気だったが、中学校の生活にも次第に慣れ、これまで合唱コンクールや集団宿泊学習、体育大会などでは、リーダーを中心に周囲の生徒も協力しながら積極的な取組ができてきた。しかし、専門部の係活動や掃除活動においては、積極的に自分の役割を果たそうとする生徒がいる反面、きつくて面倒な作業を避け、楽しいことだけ優先してしまう無責任な言動をする生徒が見られることもあった。

また、1学期の進路学習の際に行ったアンケートでは、今後の進路に対してあまり興味や関心をもっていない生徒が多く、中学校卒業後の進路や将来の職業についても未定と答えた生徒が多かった。教育相談や生活の記録などでも、進路のことについて個別に相談する機会をもったが、部活動や中学校生活に慣れることに追われ、将来を見通した進路意識や意欲は全体的に低く感じられた。

また、これまで学級活動や道徳の時間に学級運営委員会を中心にした話し合い活動を行ってきた。全体的には話される内容をよく聞こうとする姿勢が見られるが、発表する立場になった時に緊張したり恥ずかしがったりして、言おうとする内容がうまく伝えられないことが多かった。帰りの会で1分間スピーチを取り入れるようになってから、徐々に恥ずかしさを克服してきている生徒が増えつつあるように思う。しかし、発表や質問の内容が浅く、今後さらに活動を行いながら話し合い活動の質の向上を目指して指導していく必要がある。

### (2) 事前アンケートの結果と考察 (9月12日実施 調査対象：男子16名 女子15名 計31名)

①	将来、職業を選んだり働くことに興味をもっていますか。	はい 17名(54%) いいえ 3名(10%) どちらともいえない 11名(35%)	
②	将来就きたい職業が決まっていますか。	はい 22名(71%) いいえ 9名(29%)	

③ ②で「はい」と答えた人に聞きます。将来希望している職業は何ですか。 ※ ( ) 内の数字は人数を示す

- ・ 医師 ・ 獣医師 ・ 公務員 ・ 教師 ・ 自衛隊員 ・ 調理師 ・ 自動車整備士 ・ 蕎麦職
- ・ カメラマン ・ 建築士 ・ 介護士 ・ バスケットボールの選手 ・ 歌手 ・ 女優 ・ お笑い芸人
- ・ 保育士 (2) ・ 美容師 (2) ・ パティシエ (2) ・ 声優 (2)
- ・ 動物に関わる仕事 (2) ・ スポーツ関係 ・ 美術関係 ・ 福祉関係 ・ 何かものを作る仕事

④ 将来、仕事を選ぶときに、一番大切にしたい基準は何ですか。

- ・ 仕事へのやりがい (4) ・ 楽しみながら働くこと (6)
- ・ 安定した収入を得ること (8) ・ 人の役に立つこと (5)
- ・ 職場での人間関係 (2) ・ 勤務時間や通勤距離 (1)
- ・ 自分の適性に合っていること (2) ・ 父親と同じ職業に就くこと (2) ・ 分からない (1)

⑤	中学校卒業後の進路についてどのように考えていますか。	高校進学 27名(87%) 就職 1名(3%) 専門学校 1名(3%) 決めていない 2名(6%)	 ■ 高校進学 ■ 就職 ■ 専門学校 ■ 決めていない
⑥	将来の進路について家族で話をしますか。	よく話す 10名(32%) あまり話さない 15名(48%) 全く話さない 6名(19%)	 ■ よく話す ■ あまり話さない ■ 全く話さない

保護者に対する進路に関するアンケート結果 (9月14日実施 調査対象:保護者30名)

- ① お子さんが将来就きたいと考えている職業を知っていますか。 ※ ( ) 内の数字は人数を示す
- ・ 知っている (12) ・ 知らない (18)
- ② お子さんに将来就いてもらいたい職業がありますか。
- ・ はい (12) ・ いいえ (18)
- ③ ②で「はい」と答えた方に聞きます。お子さんに将来どのような職業に就いてほしいと考えていますか。
- ・ 公務員 (6) ・ 医療や福祉に関する職業 (3) ・ 保育士 (2) ・ 薬剤師
  - ・ 家業を継いで欲しい
- ④ ②で「はい」と答えた方に聞きます。その理由は何ですか。
- ・ 収入が安定しているから (6) ・ 資格を取ってほしいから (2)
  - ・ 本人の性格に合っていると思うから (2) ・ 人のためになるから ・ 家業を継いでほしいから
- ⑤ ②で「いいえ」と答えた方に聞きます。その理由は何ですか。
- ・ 本人が決めることだから (11) ・ 本人にどのような職業が向いているかまだ分からないから (6)
  - ・ 無回答 (1)
- ⑥ 中学校卒業後はどのような進路を選択してほしいですか。
- ・ 高校進学 (28) ・ 専門学校 (1) ・ 就職 (0) ・ 本人に任せる (1)

〈考察〉

今回の調査では、生徒と保護者の進路や職業に対する考え方を比較する目的で、両者にアンケートを行った。まず、将来の職業選択や働くことに興味をもってると答えた生徒が比較的多かったのに対して、将来就きたい職業が全く決まっていない生徒が3分の1程度いたことが分かった。7月上旬の進路学習の際にも同様の調査を行っているが、当時と比べると、将来の希望職業や、進路への興味・関心がこれまでの進路学習を経て次第に高まってきているようである。中学卒業後の進路については大多数が高校進学と回答している。この件については、保護者アンケートにおける希望とほぼ一致している。少数が専門学校や就職を希望しているが、家族との相談はなされておらず、学力への不安からそう答えている生徒もいるのではないかと推測できる。

希望する職業は上述のとおり多様だが、芸能分野(歌手・女優・声優・お笑い芸人)に興味を抱く生徒が多いのも特徴である。なお、動物に関わる仕事やスポーツ関係、美術関係、福祉関係、何かものを作る仕事など、は

つきりした職業ではないものの、なんとなく自分の適性を踏まえながら、徐々に希望が固まりつつある生徒の回答も多かった。

また、保護者に対する調査では、子どもに就いてほしい職業があると答えた保護者は40%であり、その理由としては安定した生活や、資格のため、本人の適性に合ったものという意見が多かった。それに対して、就いてほしい職業がないと答えた保護者からは、本人の選択に任せたいという意見や、まだ本人の適性が分からないからという意見が多かった。そして、本人と保護者の希望職業が一致している家庭は5件にとどまっている。その要因としては、子どもと進路について家族で話し合う機会が十分もたれていないことや、将来の進路を考えるとときに、保護者が現実的などらえ方をしているのに対して、生徒は夢や希望に重点をおいたとらえ方をしているということなどが挙げられる。この価値観の違いを知ることで、様々な角度から職業観や勤労観を考えるきっかけになればいいと思う。

## 7 本時の実際

### (1) 事前の活動とその指導

日時	〈活動の場〉 活動の主体	活動の内容	指導・援助の留意点
9月12日	〈帰りの会〉 全員	○働くことに対するアンケートの実施	○思っていることを素直に記入させるように助言する。
9月14日	〈各家庭〉 保護者・生徒	○保護者アンケート回収・集計	○個人情報保護のため、封書で配布・回収を行う。
10月23日	〈放課後〉 学級運営委員会	○司会・進行の事前打ち合わせ	○時間設定や活動の流れを確認させる。 ○進行表と相互評価についても確認しておく。
10月24日	〈放課後〉 学級運営委員会	○班長によるグループ活動の手順の確認	○時間設定や活動の流れを確認させる。 ○少数意見や、なかなか発言できない生徒への手だてについても確認しておく。

### (2) 本時の目標

- ア 働くことの意義や目的について話し合う中で、さまざまな職業観や勤労観に気付かせる。
- イ 自分の将来について関心をもたせ、進路学習に意欲的に取り組んでいこうとする態度を身に付けさせる。
- ウ 班での話し合う活動を通して、自分の考えをしっかりと他者に伝える能力を身に付けさせる。
- エ 他者の考え方を認め、自分の考え方との違いに気付くことで、自己の価値観を高めていこうとする態度を身に付けさせる。

### (3) 授業設計の視点

#### ア 好ましい人間関係を確立するための手だての工夫

発表の仕方を学ばせる手だてとして、以前の活動で用いた「発表活動手順表」を振り返らせることにより、活発な意見交換のための方法を再度確認させる。また、授業を和やかな雰囲気で行うために、希望職業に関するエクササイズを行い、生徒の積極的な活動を促す。

#### イ 充実した学習をさせるための手だての工夫

学級運営委員会の際に、進行係と「活動進行表」を確認し、それに沿って話し合い活動を進めさせる。また、グループ活動（話し合い活動）では、学級運営委員会において、班長がグループ活動の運営および進行方法を確認しておき、進行表をもとに話し合いを進めていけるようにする。

学習活動の評価の見直しとしては、進行係と記録係の活動を相互評価することで、リーダーの育成と、円滑で分かりやすい進行や記録の技術を身につけさせ、学級会の運営に興味をもたせていきたい。

#### ウ 自分を見つめ直し、より良い生活を築こうとする態度を育成する手だての工夫

学習の最後に、特別活動学習ファイル（特活ファイル）を用いて、本時の活動を自己評価させる。また、次の活動の時間に、前時の振り返りとして、進路選択に関する家庭や友人との会話を書かせるようにする。

(4) 本時の展開

過程	時間	活動の内容	形態	指導・援助の留意点	準備・資料	
導入	5分	1 生徒アンケートによる希望職業を見ながら、課題意識をもつ。	一斉	<p>----- (視点 ア) -----</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 楽しい雰囲気の中で授業を始められるように心がける。</li> </ul>	プロジェクトアンケート結果	
	3分	2 保護者アンケートの結果を見る。	一斉	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 友人の希望をからかったり冷やかしたりしないよう指導する。</li> </ul>	保護者アンケート	
	2分	3 本時の学習の課題をつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px auto;">働く目的について考えよう</div>	個別	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生徒の希望理由と保護者の希望理由との共通点や相違点を確認させる。</li> <li>○ ワークシートに記入させる。</li> </ul>	ワークシート 項目①	
展開	2分	4 どうしてその職業に就きたいのか、理由を発表する。	一斉	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 希望する理由と働く価値を関連させる。</li> </ul>	ワークシート 項目②	
	3分	5 働く価値を、「やりがい」、「楽しさ」、「安定した収入」、「自分の適性」、「職場の環境」、「人の役に立つ」の6つに分類する。	一斉	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生徒から出なかった価値については、教師が補足する。</li> <li>○ 6つ以外にも価値観が存在することについて確認する。</li> </ul>		
	2分	6 6つの価値の優先順位を考え、個人的な考えをワークシートに書く。	個別		ワークシート 項目③④ ランキング表	
	18分	7 生活班でグループ（5～6人）を作り、話し合い活動を行う。 ① 進行係・記録係を選出する。	一斉	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 移動は速やかに行わせ、話し合う時と意見を聞く時の区別を付けさせる。</li> <li>○ 前に出てあいさつをさせる。</li> </ul>		
			② 議題の提示と確認をする。「仕事を選ぶ上で大切にしたいことを話し合おう」	一斉		<p>----- (視点 イ) -----</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 進行表をもとに進めるが、必要に応じて教師が補足説明を行う。</li> </ul>
		③ 班ごとに話し合いを行い、働くことへの価値をランキングする。	グループ	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ワークシートに書かせる。</li> <li>○ 班長はランキング表を受け取る。</li> </ul>		
				<p>----- (視点 イ) -----</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ グループ活動進行表をもとに班長が中心になり話し合いを行う。</li> <li>○ 話し合いが活発に行われるよう、机間指導・援助をする。</li> <li>○ 少数意見も大切にし、多数決は行わず、納得いくまで話し合わせる。</li> </ul>		
	5分	8 他のグループの発表に対し、質問や反論など意見の交換を行う。	一斉	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 黒板にランキング表を貼り、代表者が前に出て、結果とその理由を述べる。</li> <li>○ 他の意見を受容しながらも、互いの価値観について意見を交換させる。</li> </ul>		
	2分	9 進行係・記録係の相互評価をする。	一斉	<p>----- (視点 イ) -----</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ まず、評価の観点に基づき、周りの生徒が評価をする。その後、本人たちが反省を発表する。</li> </ul>		ワークシート 項目⑤
	3分	10 グループを戻し、話し合いや討論を終えての自分の価値を再度確認し、どんな変容があったか発表する。	個別	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自分の価値観の変化や、総合的な価値のバランスについて捉えられるよう助言する。</li> </ul>		ワークシート 項目⑥
			<p>----- (視点 ア) -----</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 発表活動手順表を確認し、数名に発表させる。</li> </ul>			
終末	3分	11 働く人へのインタビューVTRを見る。	一斉	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 特に感想などは求めず、余韻をもって終わるように心がける。</li> </ul>		VTR
	2分	12 特活ファイルに自己評価を行う。	個別	<p>----- (視点 ウ) -----</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 特活ファイルに本時の学習を振り替えさせる。</li> </ul>	特活ファイル	

※ ランキング・出された意見に対して、その重要性や追求の価値という点から優先順位を付ける活動。

(5) 評価

- ア 働くことの意義や目的について話し合う中で、さまざまな職業観や勤労観に気付くことができたか。
- イ 自分の将来について関心をもち、進路学習に意欲的に取り組んでいこうとしたか。
- ウ 班での話し合う活動を通して、自分の考えをしっかりと他者に伝えることができたか。
- エ 他者の考え方を認め、自分の考え方との違いに気付くことで、自己の価値観を高めていこうとしたか。

(6) 生徒の活動と事後の指導

- ア 今回の活動で行ったランキング結果を教室に掲示し、進路選択に対して意欲的に理解していこうとする態度を継続させる工夫をする。
- イ 生活の記録や生徒との会話の中で、意欲的な進路意識をもっているか、活動後の生徒の変容を見る。